

香美アートアニュアル vol.10

— パンデミックの先へ —

7月6日(水)～8月21日(日)

休館日/毎週月曜日

(祝日の場合は開館し、火曜日が休館)

【関連企画】

出品作家によるシンポジウム：8月21日(日) 14時～
館長または学芸員による作品解説：会期中毎週日曜 14時～

平成25年度から当館独自の企画として続けている高知に縁のある若手作家を紹介する企画で、今年7名の作家の作品を展示します。出品作家の坂本周太郎は混沌とした現代の世界を描き、島村悠は巧みな描写力を生かして人体の部分を立て体的に表現し、前田幸来はすぐれた人物描写でその人物の内面までも表わそうと試しています。松崎賢也は近年の鹿による被害をもとに、その鹿皮を活用してバッグなど各種の実用品を制作しています。また、森尾望美は大きな構造物による空間構成の作品を展示し、山崎天峰は油彩と日本画の特徴を生かした抽象的な作品をあらわし、



▲強くても弱い人/前田幸来



▲顔/島村悠



◀「歯磨き」/山田きみこ

アートの窓

香美市立美術館



山田きみこはデザインの現場で活躍する中で生み出された独自のイラストレーションを展開します。このようにそれぞれの表現で、今を生きる若い作家の瑞々しい感覚が発揮されて生みだされる新鮮な作品が展示されます。ぜひ次世代のアーティストの力作を見ていただきたいと思えます。(館長・都築房子)

風の流れ

香美市文芸

◆ 一般投稿作品 ◆

岡崎桜雲 選

冬ざれやたまに会釈の歩く人
山茶花の散り敷くみちや友送る
兼山の水路流れぬ落花かな
西を指す脛より低き遍路石
寒暖差蛇の屍今朝は冬
人影は向かふ部落の茶摘み人
えび根蘭木の陰かりて香りおる
春日傘手結の海辺にたたみけり
三年日記生きたあかしにありのまま
万緑の野づらを翔ける風かろし
風ぬける花を散らして空青く
夕映えや代田にうつる己が影
天空の菜花の咲けば人の波
今日夏日天日一つで入浴が
死してなお夢に見たいよこの若葉
花筏静かに流れ広がれり
捨苗の明日を信じてそよぎをり
利休梅一服の茶のやはらかし
然りげなく日傘の女遠会釈

伊藤 清子
山崎 寿美
山崎 雅也
明石 亜生
楮佐古きよ
森本 幸美
西野地 薫
山崎 貴子
荒木 景子
中村 定子
岡本 初美
坂元 道子
五百蔵利美
島山 千江
原 茂
利根 弘子
山崎 鈴子
佐竹 洋子
古川 信子

◆ かほく俳句会 ◆

春めける朝釜かけ茶を点てり
花並木母の手を引く夢いく度
寒気浴びますます甘し太太根
母の日を婿も加はり祝ひくれ
牙え返るワクチン接種三回目
日脚伸び草食む山羊の影長し
にぎやかに芋掘りするは親子づれ
風光る今日もがんばるやる気出る
夜間生記念の植樹大若葉

晴れてゆく空の青さよ夏近し
古里の径の蓮華を挿花に
春眠を異常気象に奪われし
小碗に静かに垂らす春の水
春暁のけだるさタバコとコーヒート
たつぷりと塩を買ひ込む臘の夜
葉桜やどこでも停まる市営バス
降りさうな空なり胡瓜時き了へる
初音して村に少なき人うごく
うぐいすや農一服の時を得し

小松 美鶴
秋山 英身
原 恭子
大場比奈子
秋 星
佐 和
溝渕 龍泉
吉川 恵樹
東 月

乾 真紀子
岡本 敏子
小松 昇
杉山 春萌
津田吾燈人
野村 里史
前田 欣一
前田 智
宮崎ただし
宗石 愛喜

香美市森林環境税活用事業 申し込みいただいた方からの投稿を募集しています!!

かみんぐBABY木のギフト

『木のギフト』お便り紹介

蒼大くん

この度は、素敵な木のプレゼントをありがとうございます。いまはまだ少し大きいので本棚として活用しています。いつかこの椅子に一人で座れる日を楽しみに・・・♪



※香美市から木のギフトを受け取られた皆さんからのご感想、写真を募集しています。

投稿者の氏名、写真、写真に映っている方名前(ペンネームで構いません)、感想を、下記メールアドレスまでお送りください。

『ぷらっとホームMoku』のご協力により、南国市十市パークタウン内で木のギフトを手にとってご覧いただけるようになりました。

香美市の赤ちゃんに『木のギフト』をプレゼントしています。詳しくは、新生児訪問の際にお渡しするパンフレットまたは、香美市ホームページ内の特設ページをご覧ください。

【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52-9283 ✉rinsei@city.kami.lg.jp

←場所等はこちらをご覧ください



俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。す。

投稿先 総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958

今月のキラリ

広報委員会

捨苗の明日を信じてそよぎをり
散歩に出てみると、昨日までの代田が、一面、稲の苗が植えられ風に揺れている。その田の隅には、余った苗を束にして植えてある。またその近くの捨苗も風に吹かれてかすかに音をたてながら揺れている。作者はその情景を、儂くも美しい一句として抒情豊かに表現している。

水張つて星の凄みつく春夕べ
虹の色くるりくるりと石罅玉
咲き散るも暦通りに糸桜

森本 之子
山崎かずみ
山中 明石

4月号『風の流れ』

坂元道子さんの表記が『坂本道子』になっておりました。お詫びして訂正いたします。